

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	交通安全施設の整備（「文」マーク）
-----	-------------------

事業の概要	何（誰）をどのような状態にしたいのか。	子どもの交通事故防止対策として、運転者に通学路に対する注意を促し、児童の登下校時の安全な通行を確保するため、通学路に「文」マーク路面表示を実施します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容 手段	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	路面表示の設置							
		これまでの進捗状況・今後の予定								
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		設置箇所数		計画	55箇所	55箇所	年度	平成26年度		
		年間の設置数を指標として掲げました。	実績	68箇所	箇所	箇所	内容	毎年55箇所		
			達成度	123.6%	%	%				
			計画				年度			
			実績				内容			
		達成度	%	%						
コスト					事業費	2,250 千円	2,250 千円			
					うち一般財源	2,250 千円	2,250 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画（実施工程）に対する進捗状況はどうか。	22年度は、68箇所（新設18箇所・再設50箇所）に路面標示を実施しました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4：高い 3：やや高い 2：やや低い 1：低い	3	「文」マークを路面標示することにより、ドライバーに通学路である旨を知らせ、注意を促しています。
	経済性・効率性		3	新規標示及び既存の標示箇所の消去に伴う再標示について、それぞれ優先順位を設け効率的に実施しています。
	適時性		4	路面標示を廃止した場合、ドライバーの注意が低下し交通事故が増加することも考えられます。
	市の関与の必要性		4	毎年、各小学校から新設、再標示ともに設置要望があり、計画的に継続して実施するには市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性（いつから何をどうするのか）を決定する。	ア：事業の見直しを回ることが可能 イ：休止・廃止を検討 ウ：現状のまま進めることが適当 エ：終了	ウ	今後も通学路への「文」マーク路面標示を実施し、児童の登下校時の安全な通行を確保していきます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	必要な箇所に路面標示できるよう、現地調査等を今後も継続して実施していきます。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	交通安全の推進
-----	---------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	交通事故のない安全なまちづくりを目指し、警察、交通安全推進団体、企業、市民等が一体となった交通安全運動や啓発活動を推進します。また交通安全意識やマナー向上を図るため、学校・職場・地域での交通安全教育を促進します。
	その結果、実現を目指す施策名	施策名 安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容 手段	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	広報啓発活動の推進 交通安全教育の振興 交通事故相談の推進							
		これまでの進捗状況・今後の予定	広報啓発活動の推進 交通安全教育の振興 交通事故相談の推進							
	実施状況	成果・活動指標（上段:指標名、下段:指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		北九州市の交通事故死者数				計画	40人以下(暦年)	40人以下(暦年)	年度	平成26年
		北九州市交通安全計画（第7次交通安全計画）における数値目標を掲げました。				実績	31 人		内容	40人以下
						達成度	%	%		
		北九州市の交通事故発生件数				計画	8,800件以下(暦年)		年度	
		北九州市交通安全計画（第7次交通安全計画）における数値目標を掲げました。				実績	8,859 件		内容	
					達成度	%	%			
コスト					事業費	7,775 千円	9,464 千円			
					うち一般財源	7,775 千円	9,464 千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	四季の交通安全運動や飲酒運転撲滅運動、高齢者に対する交通事故防止の啓発などの活動により、22年は交通事故死者数は31人と目標値を達成しています。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	四季の交通安全運動は、春、秋は全国運動、夏、冬は県民運動として展開されており、市としても各区との連携により全市的な啓発を実施しており、交通事故防止に役立っています。
	経済性・効率性		3	啓発の内容を見直し、効率化を図ることにより、事業費を削減しています。
	適時性		4	飲酒運転や交通事故が増加している現在、啓発活動は重要であると考えます。
	市の関与の必要性		4	交通安全対策基本法に基づき、警察、交通安全推進団体、企業、市民等が一体となった運動や啓発が必要であるため、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も継続して啓発活動を実施し、交通事故防止を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	第8次交通安全計画が策定後に計画をします。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	-----------------------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	市民文化スポーツ局安全・安心課
連絡先	582-2911

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	チャイルドシートの着用促進
-----	---------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	子どもの自動車乗車中の交通事故被害を軽減するため、チャイルドシート着用の徹底や適正な使用方法、その効果についての広報啓発活動を実施します。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由	
		当初の予定	交通安全運動において着用徹底を重点項目に掲げ、広報・啓発活動を実施。						
		これまでの進捗状況、今後の予定	交通安全運動において着用徹底を重点項目に掲げ、広報・啓発活動を実施。						
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標
		着用率		計画			67 %	67 %	年度 平成26年度
		北九州市における調査での着用率の過去最高値67%を最終目標値に掲げています。		実績			48 %		内容 67%
				達成度			71.6 %	%	
				計画					年度
				実績					内容
				達成度			%	%	
	コスト				事業費		7,775 千円	9,464 千円	
					うち一般財源		7,775 千円	9,464 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	22年度の着用率は48%で昨年より若干増加しているが、着用率をさらに上げるため継続して啓発を行います。
------	-------------------------------------	---

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	四季の交通安全運動において「全ての座席のシートベルトやチャイルドシートの正しい着用の徹底」を重点項目に掲げ、啓発を実施しています。
	経済性・効率性		3	チラシや啓発物を見直すことにより事業費を削減しています。
	適時性		4	毎年、多くの交通事故が発生しており、子どもや高齢者を守るために啓発活動は重要であると考えます。
	市の関与の必要性		4	啓発活動を実施するには警察や交通安全推進団体、企業、市民等の協力が不可欠であり、実施主体として市が適切であると考えます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	今後も、啓発活動を継続して行い、普及促進に努め交通事故防止を図ります。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	チャイルドシートの着用について、広報啓発活動を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	------------------------------	----------------

「元気発進！子どもプラン」事業評価票

平成	22	年度実施事業	新規	拡充	重点	継続
						○

担当局/課	交通局・総務経営課
連絡先	771-8401

政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり
------	---------------------------

事業名	若松校区内における通学支援便運行事業
-----	--------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	若松区には、児童・生徒の自宅から学校までの通学距離が非常に長く、徒歩による通学が困難な校区があるため、交通局の独自事業として通学支援便を運行し、小・中学生の通学手段を確保します。具体的には、江川小学校・花房小学校の児童向けには、学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便を運行し、小石小学校・向洋中学校の児童・生徒向けには、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせます。	
	その結果、実現を目指す施策名	施策名	安全・安心なまちづくり

目的実現の為に実施する内容 （手段）	実施工程		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計画変更理由		
		当初の予定	事業の継続実施							
		これまでの進捗状況・今後の予定	事業の継続実施							
	実施状況	成果・活動指標（上段：指標名、下段：指標設定の考え方）					平成22年度	平成23年度	目標	
		通学支援便の計画的な運行				計画	—	—	年度	—
		学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便の運行や、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせます。				実績	実施	実施	内容	—
						達成度	%	%		
						計画			年度	
				実績			内容			
				達成度	%	%				
コスト					事業費	千円	千円			
					うち一般財源	千円	千円			

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	22年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	学校行事に運行日時を合わせた専用通学支援便の運行や、学校の登下校時間に一般乗合バスの運行時間を合わせました。
------	-------------------------------------	--

【事業の再検証】

評価	有効性	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	4	児童・生徒が、通学支援便利用により、通学に伴う時間や体力負担の軽減、通学途中の安全確保、集団行動力の育成及び交通マナーの習得に役立っています。
	経済性・効率性		—	<備考> 一般乗合バス事業の一つの運行系統としており、コスト面での評価はできません。
	適時性		4	通学するためには、通学支援便は無くしてはならないものだ位置づけられます。
	市の関与の必要性		—	<備考> 代替交通手段の確保等ができない限り、交通局が関与する必要があるため、評価できません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	通学支援便の運行については、児童・生徒、父兄、地域住民及び学校関係者から評価を得ており、仮に通学支援便の運行が無くなれば、父兄による送迎や代替交通手段の確保、地域住民及び学校関係者による登下校時の安全確保が必要となります。 今後も通学支援便の運行は必要ですが、交通局の厳しい経営状況の中で運行に伴う赤字を賄うには限界があるため、市等からの赤字額の補填が求められます。

【次年度計画】

目的実現のために23年度に実施すること	通学支援便の運行は今後も継続すべき事業であるため、運行に係る経費負担などの事業のあり方について、関係部局との協議を行います。	前年度に評価した今後の方向性
---------------------	--	----------------